

オープンイノベーション機構の整備事業
令和5年度終了評価 評価結果

採択大学名: 早稲田大学

1. 評価結果(A)

期待どおりの成果が得られており、大型共同研究等の組成・運営等に向けた産学連携マネジメントとして、今後も十分な活動が期待される。

2. 評価所見

・運営体制

研究戦略、産学官連携推進及び TLO の機能と人員を集約した「リサーチイノベーションセンター(RIC)」を新設し、①オープンイノベーション戦略研究機構(OI 機構)、②研究戦略部門(URA)、③知財・研究連携支援部門(TLO)、④アントレプレナーシップ部門の4つが有機的に連携した対企業・民間団体のワンストップサービスとしての機能強化が図られ、企業との包括連携やイノベーション人材の育成等を含めたオープンイノベーション戦略を拡大・推進できた点は高く評価できる。

統括クリエイティブマネージャー(統括 CM)及びクリエイティブマネージャー(CM)のエフォート確保や、URA 及び CM 等専門人材の適正配置・拡充等の積極的な組織体制整備が進められている。加えて、機構長、副機構長及び統括 CM による、学内関係組織や研究者等との連携を強く意識した戦略的なOI機構運営(事業計画、目標・実績・進捗、要解決課題、財務・人事情報、産学連携活動の知見・ノウハウ等の共有など)が、大型共同研究の組成機会の拡大に繋がっている。

・研究運営

研究部門に関しては、当初 4 分野でスタートした重点推進研究プロジェクト部門(リサーチ・ファクトリー)を 2019 年度には 7 分野、2020 年度以降は 8 分野へと拡大させており、①企業とのマッチング支援や幅広い企業ニーズに対して領域横断的な調整を担う CM、研究プロジェクトの契約交渉や進捗管理及び研究規模の拡大等をミッションとするファクトリークリエイティブマネージャー(FCM)等の専門人材の確保、②当該人材の活動エフォート率の向上、③URA による支援体制の拡充等を図るなど、個々の研究プロジェクトに対する支援機能の強化も着実に進められた。

・資金調達

OI 機構主導の下、①協調領域に設置・運営する社会実装志向の3つの大型コンソーシアムを活用した競争領域への接続、②文理融合・領域横断型研究の積極推進、③大型共同プロジェクトの創出を目指す「新事業創出プログラム(プレ・ラボ)」等の活動が展開され、当初に掲げた毎事業年度の資金獲得目標の達成と、1千万円以上の共同研究の着実な増加が認められた。加えて、事業最終年度にあっては、寄附金の受入により収入財源の多様化を図り、目標値を大幅に上回る資金獲得がなされたことは高く評価できる。

他方、寄附金を除く共同研究契約由来の収入及び自立的経営財源とする収入規模の拡大の

点においては、多様な人文学・社会科学系領域を擁する総合大学としての貴学の高いポテンシャルに鑑み、今後、更なる高みを目指した目標設定と当該目標の達成に向けた取組を期待したい。

・大学改革

産学連携活動のワンストップサービス機能の強化を図るものとして、研究戦略、産学官連携推進、TLO 及びアントレプレナーシップの機能と人員を集約し設定した「リサーチイノベーションセンター(RIC)」は、従来型の縦割り組織の障壁を打破する新たな体制のモデルとして期待される。

また、直接経費、研究者の人件費、大学設備・知財等の使用料や間接経費等の見積基準を整備して適正な研究経費を積算し、契約額に①「研究社会実装管理経費(一般管理費)」や、②研究者の「知の価値」を反映した「産学連携教員単価(インセンティブ付与分を含む)」を導入することで、民間資金の獲得額を増加させ、研究者に配分する資金の増額のほか、研究環境や若手研究者・学生等の育成環境の充実が図られる仕組みを構築した。当該取組みは、研究者の産学連携活動への参画と資金獲得のモチベーション向上にも寄与したものと評価する。

・今後の展望

今後において、学内他機構・他部局・研究センター等との連携協力や「リサーチイノベーションセンター(RIC)」によるワンストップ型支援の展開のほか、校友会(大学OB)ネットワークを活用した産学連携イベントによる産学のマッチング、総長及び統括CM等によるトップダウン型の組織対組織の大型連携の提案、大学の中立性を活かした産官学コンソーシアム等を起点とする研究プロジェクトの組成など、多様な取組みが計画されている。これらについて、本事業で配置・整備してきた専門人材や推進体制及び活動ノウハウ等を十分に活かしながら着実に実行され、産学連携パフォーマンスの一層の向上、大学成果の社会還元、民間資金の獲得増、財務基盤及び組織体制の強化、教育研究力の強化といった好循環モデルの確立を期待したい。